

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和5年6月分）

【製造業】

○製造業は、4月の鉱工業生産指数は前月比▲6.0%となった。ヒアリングでは、受注はコロナ前の状況に戻ってきており、大手自動車メーカーの生産も好調であることから、今後業績は上向くのではないかとの声が聞かれた一方で、相次ぐ電気代等の高騰に対して依然として価格転嫁が追い付かず、利益は減少しているとの声や、長引く中国の景気減速が足かせになっているとの声も聞かれた。

【地場産業】

○地場産業は、4月の鉱工業生産指数は、繊維工業、家具及び食料品で低下した。ヒアリングでは、円安の影響やサプライチェーンの安定化を図るため、生産拠点を海外から国内シフトする動きが加速し、受注が増加しているとの声も聞かれた一方で、価格転嫁を実施したことで受注量が減少したとの声や、円安による輸入品の原価上昇で、輸入販売部門を閉鎖したとの声も聞かれた。

【設備投資】

○設備投資は、5月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比▲22.1%となった。ヒアリングでは、人手不足を解消するべく、工程の一部を自動化するとの声や、古い工場を新工場へ機能移管し、省人化やデジタル化を図るとの声や、省エネ設備への投資を進めているとの声も聞かれた。

【個人消費】

○個人消費は、5月の販売額は、ドラッグストア及びコンビニで前年同月上昇し、全体で同1.3%上昇となった。ヒアリングでは、好調な声がある中で、コロナの5類移行により旅行やレジャー志向が強まり、商業施設の売上が減少しているとの声や、社会活動の平常化が進み、コロナ禍で堅調だったキャンプ等の売上が減少しているとの声も聞かれた。

【観光】

○観光は、5月の観光客数、宿泊者数はコロナ前の令和元年同月比▲24.0%、▲11.1%となった。宿泊施設からのヒアリングでは、インバウンドの動きが落ち着いてきているとの声や、食材を中心とした原材料やエネルギー価格が高騰し、経営を圧迫しているとの声、人手不足が深刻化しているとの声も聞かれた。

【資金繰り】

○企業の資金繰りは、5月の制度融資実績は、金額は4ヶ月連続で増加した。金融機関からは、長期・短期資金の利用があり、引き続き資金需要は堅調であるとの声や、原材料や電気代高騰の影響が長引き、これまで黒字だった企業が赤字になるなど、収益が悪化している事業者が多数見受けられるとの声も聞かれた。

【雇用】

○雇用面は、5月の有効求人倍率は1.58倍と21ヶ月連続で1.50倍を超えた。ヒアリングでは、コロナ禍からの景気回復を受け、採用が活発化しているため、地方での2025年卒学生の採用はかなり厳しい状況にあるとの声や、専門性の高い技術者やデジタル、機械等の技能のあるコア人材が不足しているとの声、更には、人手不足により、メーカーの生産計画に支障をきたす恐れがあるとの声も聞かれた。

【景気動向】

4月の景気動向指数（一致指数）は前月比▲2.8ポイント、5月の中小企業の景況感と同5ポイント上昇となった。